

10月～12月	
議会のうごき	
令和2年10月以降の議会の主な活動状況を次のとおりお知らせします。	
<10月>	
1日	広報小委員会
6日	復興対策特別委員会理事会／広報小委員会
8日	議会運営委員会
9日	広報小委員会
21日	復興対策特別委員会／全員協議会
22日	議会と語る会（産業建設班）
27日	議会と語る会（教育民生班）
28日	議会と語る会（総務班）／復興対策特別委員会理事会
<11月>	
4日	議会運営委員会
5日	決算等特別委員会／復興対策特別委員会
6日	第3回臨時会／広報小委員会
10日	議会と語る会（総務班）
11日	議会と語る会（産業建設班）
19日	復興対策特別委員会理事会／全員協議会／広報小委員会
24日	議会運営委員会
27日	第4回定例会（～12月10日）／全員協議会／総務常任委員会／教育民生常任委員会／産業建設常任委員会／広報小委員会
<12月>	
1日	本会議（一般質問）／会派代表者会
2日	本会議（一般質問）
3日	本会議（一般質問）／予算等特別委員会
4日	予算等特別委員会
7日	総務常任委員会／教育民生常任委員会／産業建設常任委員会
8日	復興対策特別委員会／広報小委員会
10日	本会議／全員協議会
11日	広報小委員会
15日	広報小委員会
21日	広報小委員会
24日	広報小委員会



議場の大掃除

第4回定例会の最終日となる12月10日の会議終了後、1年の感謝を込めて議員全員で議場や議会図書室、議員控室などの大掃除を行いました。

議会だよりクイズ

○の中にはどんな文字が入るでしょうか？

12月17日に気仙町今泉地区に開業した商業施設の名前は

「陸前高田 発酵パーク○○○ー」

※カタカナ

<応募方法>クイズの答え、住所、氏名、年齢を記入の上、ハガキまたはFAX(0192-53-1210)で応募してください。

また、市議会だよりを読んだ感想、市議会への意見・要望などを必ず記入してください。

正解者の中から抽選で5人に粗品をお贈りします（当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます）。

※いただいた意見・要望などは次回の市議会だよりに掲載することがあります（住所、氏名は掲載しません）。

〈あて先〉〒029-2292 陸前高田市高田町字鳴石 42-5
陸前高田市議会事務局 宛

〈しめきり〉令和3年2月12日(金)(当日消印有効)

市議会だより第114号クイズの答え

○の中にはどんな文字が入るでしょうか？

本市議会で検討チームを立ち上げオンライン研修会などに利用を予定しているのは「○○○○ネット会議」

(答え) **インター**

みんなの声

市民の皆さまから議会に寄せられた意見・要望などの一部をご紹介します。

(文章が長い場合は、抜粋して掲載させていただきます)

○一般質問の欄で、質問した市議と答弁した市長、当局の方々の内容が書いてあるので、市政の一部が分かります。いつも質問する市議とあまりしない市議がいらっしゃるのですね。

○感想：市内に残る震災遺構の保存の様子がよく分かって楽しい。

要望：早く新笹ノ田トンネルに着手してほしい。

No.2 追跡調査

あの課題どうなった？

～震災不明者の古川沼搜索～

問 本市では、いまだに202人が行方不明となっていますが、震災後、古川沼での搜索はどのように行われてきたのでしょうか。

答 請願が提出され、採択されたのが平成28年ですが、それ以前にも、市が把握しているだけで9回ほどの搜索が行われています。

具体的には、県警や海上保安庁による搜索をはじめ、県や市ががれき撤去や海中・水中を工事する際、事前に行方不明者や遺留品などの搜索を行っています。

方法は、ソナーを装着したボートでの調査、潜水や水中ロボット、箱メガネでの

東日本大震災からの復興の歩みの中で、本市議会に提出された請願をはじめ、議会報告会で市民から寄せられた意見や要望などの諸課題について、追跡調査した内容を掲載します。今回は平成28年第1回定例会で採択した請願「東日本大震災津波による行方不明者の古川沼及び広田湾の海底再搜索について」、市担当者から話を聞きました。

搜索、胴長による入水搜索などです。

問 請願採択後の状況はいかがでしたでしょうか。

答 東海大学が4日間にわたり船上からのソナー調査を行うことにより搜索箇所を特定し、その後県警と海上保安庁による潜水調査、本市職員やボランティアに協力してもらいながら遺留品の搜索などを行ってきたところです。しかし、残念なことに、これまでの搜索「1次搜索と2次搜索」で不明者の手掛かりとなるような物は発見されていません。

問 不明者家族以外であっても、古川沼にはいまだに眠っている方がいるのではないかと思っている市民が少なくありません。これまでの方法で見えないのであれば、手法を変えるなど、例えば沼の水を抜くとか、底の土砂をさらって陸に上げる浚渫(しゅんせつ)といった方法は考えられないか。



問 いでしょうか。

答 古川沼は県管理の二級河川「川原川」ということもあり、県をはじめ国とも相談したり、要望してきた経緯があります。しかし、国や県からは「水を抜こうとしても上流からの水を止めることが難しく、ましてや面積が広すぎて課題が多い」との説明を受けているところです。

問 今後の対応をどのように考えているのでしょうか。

答 大船渡警察署は、今後とも不明者家族の要望や復興工事の進捗状況を踏まえ、随時、搜索していく方針と伺っています。

また、市としても不明者家族の気持ちに寄り添いながら搜索に協力していきたいと考えています。震災から10年という節目を迎え、暖かい時期にもう一度、一斉搜索できないか、大船渡警察署へ要望することになっています。また、どのような方法がいいのかについては、関係者らと協議していきたいと考えています。

(担当・鵜浦昌也)

古川沼は県管理の二級河川「川原川」